

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成28年度)

2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ②ライフ・イノベーション分野(9/12)

	評価区分(※)	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
			目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
かがわ医療福祉総合特区 (香川県)	正	3.4	3.3 <u>進捗度</u> ・電子カルテ機能統合型テレビ会議システム「ドクターコム」等による遠隔医療の推進 115% ・へき地薬局の人口当たりの処方せん枚数の割合 67% ・医療ライブラリ事業実施によるへき地離島の医師等の負担軽減 119% 等	3.4 <u>財政支援等</u> ・ドクターコム利活用促進事業 ・医療ライブラリ事業 等 <u>地域独自の取組</u> ・複合型福祉サービス充実事業	3.4	<p>・医療従事者の人材の効率的な活用(ソフト)と施設面での再編とその補強(ハード)との融合が工夫されている点が評価できる。また、医療資源を有効活用するための情報システム構築が実際に使われていること、複合型サービス施設の開設数が目標件数に達したことは一定程度評価できる。</p> <p>・電子カルテ機能統合型テレビ会議システム「ドクターコム」等による遠隔医療、僻地薬局の開設等は、人口減少、少子高齢化による課題を解決するモデル事業となりうるが、いずれの取組も県レベルとしては実施件数が少ない。さらなる実績が求められる。</p> <p>・今後は、これらのインフラが住民の健康改善にどう役立ったかについての評価が望まれる。</p> <p>・評価指標(1)－①、②のドクターコム等の利用、(2)のへき地薬局の活用の数値目標については、その設定根拠となる対象となる在宅患者数と、その中のどの程度の割合を目標とするのかを示すと、数値目標の評価がよりの確になる。また、実績値が既に目標とする累積値を達成しているものがあるため、一部見直しが必要ではないか。</p>

※「正」とは平成28年3月末までに計画が認定された地区の評価、「準」とは平成28年3月末時点では計画が認定されていない地区の評価を意味する。